

腹話術と信仰成長（3） —聖霊の風が吹く時—

「風は思いのままに吹きます。」（ヨハネの福音書3章8節）

私は25歳で腹話術を始めて40年になりますが、この間、私の心の内には、常に腹話術という賜物に対する問いかけがありました。「なぜ神はこの賜物を私に与えられたのか」「腹話術でみことばを伝え、証しすることは、どこまで可能なのか」「腹話術を通して神の栄光はいかに現れるのか」というものです。

すると、これらの問いに対する答えともいえるべき出来事が、昨年末、3回の集会で起こりました。それは、キャンプ場での超教派の集いにおける50分のパペットメッセージ（内パペットは20分）、私の属する教会での収穫感謝の集いにおける証し（腹話術で6分）、他教会の子どもクリスマス会での20分のパペットメッセージ（内パペットは10分）と、すべて違った規模・目的の集会であり、私の霊が感じ取ったものはそれぞれでしたが、まとめてみると、以下のような特徴をもつものでした。

（1）御霊による自由・・・それぞれ、集会の最初から、不思議な主の臨在が感じられ、私はこれまで以上に、リラックスして講壇に立つことができました。

（2）笑い喜び・・・人々は、パペットを見た瞬間から、顔をほころばせ、パペットのひとつひとつの台詞と動作に反応して、実に良く笑いしました。その反応に、私の心は喜びに満たされ、パペットも自由に、生き生きと動いているのがわかりました。

（3）心に届くことば・・・パペットの時間から証しメッセージに移ると、人々はますます熱心に、身を乗り出すようにして、話に耳を傾けてくれました。語っていた私にも、ひとつひとつのことばが、みなさんの魂まで吸い込まれるように入っていくのが感じられました。もはや原稿を超えたことばが、天から降りてくるように次々と与えられたのです。

（4）語る者と聴く者との一体感・・・多くの場合、私はあくまでも語る側であり、相手は聴く側として、見えない境目のようなものがあるのですが、その時は、まるで主にあつてはひとつ、という不思議な一体感があつたのです。

（5）神のみわざと栄光をほめたたえる・・・普通は、証しメッセージの後でも、人間的なあいさつが返ってくることが多いのですが、その時は、私もみなさんも、主のみわざに感動して、黙って微笑みながら（ある人は涙ぐみながら）握手したりしていました。ただ、ただ、共に主を思い、主の栄光を拝していたのです。

このような体験が続いて、私の心は主への感謝でいっぱいになりました。

「主は葛藤の続いた私の腹話術人生に、とうとうひとつの答えを備えてくださった」という満ち足りた思いになったからです。その答えをひとつの文章にまとめるなら、こういうことでしょうか。—「内なる人が変革される経験をもつ者（神のみことばの力を体験した者）の語る証し（台詞）に聖霊が働く時、腹話術（腹話術師と人形）は、神の栄光を現す器として用いられる」—

しかも、このことを知った時の私の演技スタイルは、たったひとつ、ふたつのパペットで、シンプルな演出で、たかだか6分から20分の長さのものであつたということが、まことに印象的でした。

すなわち、腹話術が神の栄光のために用いられるか否かは、複雑で高いレ

ベルの技術があるか否かではなく、すべてが、神の主権と聖霊の支配の中に入れられているかどうかにかかっていたのです。これこそ、「腹話術は神の賜物だ」と言われるゆえんでありましょう。



私は、このような体験を語って、ゴスペル腹話術を志しているみなさんに、誇っているのでしょうか。むしろ、この単純な真理に気づくのに、40年もかかってしまった私の悟りの鈍さを恥ずかしく思っているのです。そして、みなさんも、同じ主を信じ、愛しておられるなら、聖霊の働きを祈り求めさえすれば、同様の体験ができることを、心から信じているとお伝えしたいからなのです。これは、腹話術歴が何年であろうと関係なく与えられる神の恵みなのに違いありません。ですから、私たちの内におられる御霊と上からの聖霊の油注ぎを求めて、祈っていいようではありませんか。(ルカ11:13)